

暁木会会員 各位

令和3年3月吉日

暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、皆様の生活様式、働き方や仕事のあり方が激変するなど、極めて厳しい状況にあります。そういった中、皆様に元気を届けられるよう、暁木会ニュース第44号では、母校の近況報告、就職状況、大学生活の思い出、オンラインインターンシップ、キャリアガイダンスに参加した感想、卒業生へのメッセージなど幅広く会員様から寄稿して頂いております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

母校の近況報告

令和2年度 市民工学専攻長・学科長 森川 英典

暁木会会員の皆様には、常日頃より市民工学専攻・市民工学科の運営ならびに学生教育に多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

前年度末から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、卒業式・入学式の中止、授業の開講延期、授業のオンライン化など大きな混乱を来しました。その中で、暁木会からは、4月当初から多大なるご支援をいただきました。具体的にはマスク、消毒液など感染防止用品調達支援、遠隔授業に対する支援としてスピーカーホン、ノートパソコンなど機材購入支援、学生に対するWi-Fi ルーターレンタル費用助成などで、これらの支援に支えられて、5月からオンライン授業、その後、対面・オンライン併用授業、大学院入試などを無事に実施することができました。暁木会の存在が大学にとっていかに重要であるかと再認識した次第です。伊藤裕文会長をはじめとする暁木会役員の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、毎年3回程度開催しています定例の暁木会と教室との意見交換会については新型コロナウイルス感染症の影響により開催できず、専攻長（森川）と教学委員（前期：織田澤利守准教授、後期：鋤田泰子准教授）が暁木会の役員会に2回参加させていただき意見交換したことと、9月10日に暁木会と専攻長・教学委員とのWeb座談会を、10月5日に暁木会と就職担当教員（澁谷啓教授、中山恵介教授）とのWeb座談会を開催し、教室運営・学生支援や就職活動支援などについて意見交換させていただく機会を持ちました。

教育に関しては、暁木会の皆様のご協力を得て、毎年、「プロジェクト・マネジメント」、「公共施設工学」等の科目をご提供いただいております。学生にとっては、現場の方々の生の声を聞くことができる貴重な科目となっています。本年度は、オンライン授業となり、非常勤講師の方々には大変なご苦勞を強いることになってしまいましたが、例年と同じく品質の高い授業を提供していただきました。次年度も引き続きご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。また、例年6～7月に実施していた学部2年生のインターンシップ、8～9月に実施していた学部3年生のインターンシップについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、残念ながら中止となりました。学生にとって将来の就職に向け

た貴重な行事でありますので、その影響が心配されるところです。この点につきましても、暁木会の皆様のご指導ご鞭撻のほどを、よろしくお願い申し上げます。

最後に教室の教員体制について報告させていただきます。市民工学専攻の教員組織は人間安全工学講座、環境共生工学講座の2講座体制で、各講座に6教育分野が設けられています。令和3年度の専攻長・学科長は芥川真一教授、教学委員は加藤正司准教授です。現在のM1学生と学部3年生の就職担当は中山恵介教授、その次の年度の就職担当は森川が担当する予定です。表1に令和3年1月時点の教員体制を示しますが、人事異動としましては、まず、令和2年4月1日付で、鶴田宏樹准教授が環境共生工学講座都市経営工学分野に配置（主配置はバリュースクール）されました。また、環境共生工学講座都市経営工学分野に配置されている祇園景子特命助教の主配置・職がバリュースクール・助教に変わりました。令和2年5月付で、織田澤利守准教授と瀬谷創准教授が人間安全工学講座交通システム工学分野へ配置換えとなりました。令和2年10月1日付で、環境共生工学講座都市経営工学分野に瀬木俊輔准教授が京都大学から着任されました。また、人間安全工学講座交通システム工学分野に安田昌平特命助教が着任されました。令和3年1月1日付で、織田澤利守准教授が人間安全工学講座交通システム工学分野教授に昇任され、また、橋伸也講師が都市安全研究センター准教授に昇任されました。

以上のように、暁木会の会員の皆様方からの多大なるご支援に基づいて、コロナ禍のなかで市民工学専攻・市民工学科の教育研究活動と教室運営を着実に進めることができました。教室を代表して、重ねて御礼申し上げますとともに、今後、さらなるご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

表1 令和3年1月時点での市民工学専攻・市民工学科教育研究体制

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	芥川 真一	三木 朋広	
	地盤安全工学	澁谷 啓		片岡 沙都紀
	交通システム工学	織田澤 利守	瀬谷 創	安田昌平(特命)
	地盤防災工学		竹山 智英	
	地震減災工学	長尾 毅*	鋤田 泰子	
	流域防災工学		小林 健一郎*	
環境共生工学	環境流体工学	内山 雄介		齋藤 雅彦
	水圏環境工学	中山 恵介		
	地圏環境工学	大石 哲* 梶川 義幸*(特命)	加藤 正司	山浦 剛*(特命)
	広域環境工学	飯塚 敦*	橋 伸也* 銭谷 誠司* (特命)	
	都市保全工学	森川 英典	橋本 国太郎	
	都市経営工学	小池 淳司	瀬木 俊輔 鶴田 宏樹**	祇園 景子**

無印 主配置は工学研究科市民工学専攻

* 主配置は都市安全研究センター

** 主配置はバリュースクール (V. School)

就職状況の報告

令和2年度卒業・修了生就職支援担当 教授 澁谷 啓

暁木会会員の皆様方には、常日頃から学生の就職活動に対して多大なるご支援ならびにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。下表は、令和3年1月時点における就職内定状況のまとめです。皆様方のご尽力のお蔭で、今年度に関しては、学生諸氏の希望が概ね叶い、きわどいタイミングでコロナ禍の影響を免れたと感じています。一方、来年度は一転して厳しい状況になることが容易に想像できます。そこで、これまで熱心にお声がけ頂きながらご縁の薄かった企業様におかれましては、なお一層積極的にアピールして頂ければ幸甚です。令和4年4月に就職を目指す学生に対しては中山恵介教授が窓口となります。今後とも引き続きご支援ならびにご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

業種	学部卒業者		大学院博士課程前期課程修了者	
	人数	就職内定先・進学予定先	人数	就職内定先・進学予定先
国家公務員， 独立法人	1	近畿地方整備局	2	国土交通省(2)
地方公務員等	5	神戸市(3)，大阪市(2)	4	兵庫県，神戸市，大阪市，奈良県
鉄道	0		4	南海電気鉄道(株)，西日本旅客鉄道(株) 京阪ホールディングス(株)，東急(株)
道路	1	中日本高速道路(株)	3	西日本高速道路(株)(2) 本州四国連絡高速道路(株)
総合建設業	0		6	(株)大林組，鹿島建設(株) 大成建設(株)(2)，清水建設(株) 大鉄工業(株)
コンサルタント	1	(株)エフウォーターマネジ メント	4	(株)建設技術研究所(2)，日本工営(株) パシフィックコンサルタンツ(株)
鉄鋼，プラント	1	住友金属鉱山(株)	1	JFE エンジニアリング(株)
エネルギー，環境	0		5	大阪ガス(株) 東京電力ホールディングス(株)(2) 関西電力(株) (株)関電エネルギーソリューション
通信	0		2	西日本電信電話(株) NTT コミュニケーションズ(株)
IT，シンクタンク メディア	0		1	TIS(株)
メーカー，住宅 不動産，商社，流通， 金融，その他	6	リバー産業(株)，パーソナル AVCテクノロジー(株)，(株)ウィ ル，日鉄興和不動産(株)，(株) MONKEY，(株)トライグルー プ	7	リバー産業(株)，(株)横河ブリッジホ ールディングス(株)(2)，(株)みずほフィ ナンシャルグループ，日立造船(株) 東京建物(株)，网易杭州科技股份有限 公司
進学，留学	43	神戸大学(38)，京都大学(3)， 東京大学(2)	0	
その他	5	休学(1)，留年(2)，未定(2)	6	休学(2)，留年(1)，未定(3)
人数合計		63		45

大学生活の思い出

修士2回生 二見 悠太郎(橋本研究室)

6年間という月日があっという間に感じるほど、大学生活は私にとってとても充実したものになりました。授業や研究、部活動など休む間もなくずっと何かをしてきたイメージがあります。その中でも学部時代の4年間、そして最後の1年間はコーチとして参加したアメリカンフットボール部の活動は特に思い出に残っています。

アメフト部は学部4回の時に4回生全員でより良いチームを作るためにどういった事をした方が良いか、試合に勝つためにどのような練習が必要なのか等を長い時間をかけて何度も話合います。話し合う時間はとても大変でしたが、お互いの考えを主張しより良い結論を探すという作業は今まで体験したことが無くいい経験をさせてもらったと思っています。また、私は4回生の時、次戦に向けての練習メニューの作成などを任されていました。当初はチームが勝てず思い通りに行かなかったのですが、現状を分析し試合に勝つために必要な練習を逆算して考えるようになってからは試合にも勝てるようになり、とてもうれしかったです。



研究室に配属されてからは研究活動に取り組みましたが、わからない事が多くその度に様々な人々から助言をいただき、なんとか研究を続けることが出来ました。助言して下さった橋本先生や技術職員の中西様にはとても感謝しています。1つ3年間の研究室生活で悔いがあるとすれば1度も研究室旅行に行けてない事です。B4の時は部活動を優先したため参加できず、M1の時は各々の予定が合わず研究室旅行は開催されず、M2の時に今年こそはと思いましたが、残念ながらコロナがあったので研究室旅行はありませんでした。

最後になりますがこの様な充実した学生生活を送れたのは支えて下さった皆様のおかげです。今年の4月から私も社会人になります、何年後になるかわかりませんが私も多くの学生を支える事が出来る社会人になれるよう頑張っていこうと思います。6年間ありがとうございました。



【アメフト部の仲間達】

大学生活の思い出

修士2回生 林 啓太(竹山研究室)

竹山研究室の林啓太と申します。この3月に修了すべく研究、論文執筆に励んでおります。学部生の間、私は体育会洋弓部に所属し、比較的緩い部活ではあったものの個人的にのめり込んでおり、練習漬けの生活でした。部の運営だけでなく、個人的な技術の向上についても周囲との積極的なコミュニケーションが重要で、そういった面での成長ができました。

市民工学科に関連して印象に残っている授業は創造思考ゼミナールでした。グループワークでテーマについて調べ、発表するもので中学高校では経験したことのない、主体的

な雰囲気であったことに非常に驚き、緊張したことを覚えています。

研究室に配属された後は、さらに主体性が必要になり、責任が生まれました。研究について、うまくいかないことも数多くありましたが、先生や先輩に助言をいただきながら解決していくことができました。また、研究室全員での旅行や、飲み会、アクティビティなどをすることも多く、人間関係の濃い学生生活を送ることができました。大人数でのそういった企画をする立場をさせていただいたのもいい経験になりました。卒論提出の1か月前のスノーボー旅行で、旅行初日に肩を骨折し、卒論発表会で肩は上がりますか？という質疑応答があったのも今となってはいい思い出です。

コロナ禍によって3密を回避しなくてはならなくなった今年も、ミーティングをZOOMで行ったり、飲み会などの親交の場も登山や釣りに形を変えながら研究室の関係が希薄にならずに過ごせました。

大学生活の思い出を書かせていただくにあたって6年間を振り返ると充実した大学生活を送れたのは先生方、同期、先輩、後輩、家族、すべての出会った人に恵まれていたのだと改めて痛感しております。特に、共に勉学に励み、苦楽を過ごした研究室の仲間には深く感謝するとともにこれからの社会人生活でも互いに励ましあい、切磋琢磨していきたいと思います。



百年記念館にて 研究室集合写真

大学生活の思い出

修士2回生 青木 駿太 (瀬谷研究室)

私は素晴らしいテニスサークルと研究室に巡り合い、非常に充実した学生生活6年間を過ごすことができました。

大学1年から4年まで所属していたテニスサークルでは、週2回の練習や合宿だけでなく、BBQ大会やスノーボー旅行などテニス以外のイベントにも積極的に参加していました。また、サークルの活動がない日でもサークルの何人かで集まり、目的もなく何時間も他愛もない話で盛り上がっていたため、まさしくサークル漬けの4年間を過ごしたと言えます。サークルで得たものはいくつもあります。まず、一生付き合っていきたいと思えるかけがえのない先輩、同期、後輩との出会いです。皆、サークルを引退し、生活する場所も立場も変化しましたが、今でも頻繁に集まりサークル時代の思い出話で盛り上がっています。そしてその時間がとても心地よく、そうした場が今の自分の心の拠り所となっています。またグループをまとめる力も身に付けることができました。新入生勧誘活動の幹事やサークルを運営する幹部などそれまで経験してこなかった大人数のグループをまとめる立場を経験し、メンバーのモチベーションを上げる方法やグループ全体を見渡せる広い視野など様々なスキルが身に付きました。

次に研究室について話したいと思います。私は大学4年の1年間と、大学院からの2年間で2つの研究室に所属し、喜多先生と瀬谷先生という2人の素晴らしい先生の下で学ぶことができました。喜多先生からは、研究についてだけでなく、アポイントの取り方やメー

ルの書き方など研究以外のことまで教わりました。また私は、自分の意見を出さずまずは相手の意見を聞く癖がありましたが、喜多先生との研究を通じて、自分の意見を説得したり、相手から有益なアドバイスや意見を引き出せる力を身に付けることができました。瀬谷先生は、どんな些細な事でもいつも優しく親身に相談に乗ってくださいました。瀬谷先生のおかげで1年半で多くの分析に関する知識を身に付けることができ、分析の楽しさや面白さを知ることができました。また研究室の同期や先輩にも恵まれ、研究室のみんなとの BBQ や研究室旅行はとてもいい思い出です。

このように、テニスサークルと研究室は私の6年間の学生生活を素晴らしいものにしてくれただけでなく、自分自身を大きく成長させてくれました。テニスサークルや研究室での出会いや経験は今後の人生を助けてくれると確信しています。社会人生活も、のちに振り返ったときに素晴らしいものであったと思えるような時間にしたいです。



テニスサークルの同期との一枚



研究室旅行での一枚

大学生生活の思い出

学部4回生 穴瀬 博子(小林研究室)

神戸大学の市民工学科に入学してから4年間の学習を通し、様々なことを学びました。授業では、市民工学における基礎知識から細かい専門分野など、さらには技術者としての倫理観までを習いました。座学で身につけた知識を用いて、実験をすることで技能も身につけることができました。さらにはトンネルや橋を作っている工事現場への見学により、市民工学がどのように使われ、社会の役に立っているのか感じることができました。教科書の中だけではなく、実際に目の当たりにすることで市民工学への興味が深まっていったように思います。何気なく毎日通っていた道や、使っている水道、さらには今自分が立っている場所の地盤まで、自分の生活は市民工学によって支えられていることを知り、気づけば日常生活の中で市民工学について考えている時間が多くなっていきました。

この市民工学への興味から、自ら土木遺産を見学しに行くようにもなりました。休みの日に、先輩・同期・後輩と集まり、トンネルや廃線、ダムを見に行ったのはとても良い思い出です。初めは、ただただ大きな土木建築に圧倒されているだけだったのですが、大学での学習が進んでいくにつれてどのような工法が使われ、どのような工夫がなされているのか、考えるようになりました。そのときから、どんな土木工事も唯一無二であり、それぞれの環境をふまえて工法や形状が工夫されていることを知り、意識するようになりました。見学しに行った土木建築で使われていた工法を授業で習うと、さらに理解が深まりとても面白く感じていました。数ある土木建築の中でも、それぞれの特徴が分かりやすく、巨大で迫力もあるダムが大好きで、よく見に行きました。



↑青土ダム見学



↑黒部ダム見学

大学時代、私は布引五本松ダムによく足を運んでいました。日本最古の重力式コンクリートダムで、城壁のようで迫力があることはもちろんですが、阪神淡路大震災を耐え抜いたということに、この土木建築の凄さを感じました。震災後、一部工事が行われましたが、今も神戸市民の貴重な水資源として利用されています。このダムを見ると、明治時代から長い時間ダムとしての役割を担ってきた歴史、そして今も神戸市民の生活を支えていることに誇りを持っているかのように感じられます。

研究室配属では、ダム、そして川に関する研究がしたいと思い、小林先生の研究室を志望しました。研究テーマも、土木建築の面白さに気づかせてくれた、ダムに関するものに決まりました。これまでのように見学して、歴史を学ぶだけでなく、ダムの実用性について考えることが多くなりました。またダムを違った側面から見ることができ、さらにダムが好きになりました。研究を進めるなかで、土木建築や土木工事に携わりながら、ダムの様に市民の方々の生活を支えることができるような技術者になりたいとさらに強く思うようになりました。

この大学生活4年間で、市民工学に対する知識や技能を身につけ、面白さも知ることができました。私の大学生活に様々なところで関わってくださった先生方、先輩方や後輩、仲間へたいへん感謝しています。ありがとうございました。

オンラインインターシップ、キャリアガイダンス

オンラインインターシップに参加した感想

修士1回生 長友 康輔(中山研究室)

今年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、本来ならば対面形式で行われてきたインターシップの多くがオンライン形式で行われることとなった。私はオンライン形式のインターシップを通して、対面形式では感じる事のない難しさを感じた。

まず、働く現場を肌で感じる事が難しい点である。インターシップに参加する目的の一つに、働く現場を肌で感じる事が挙げられる。対面形式であれば、直接目で見る事ができるため、施設の規模や現場の雰囲気を感じることができる。一方、オンライン形式の場合、現場の様子は写真や動画を見ることでしか体感することができない。実際の規模や現場の雰囲気を感じるには限界があると感じた。

続いて、グループワークにおける議論を進める事が難しい点である。複数人が話し始めようとした場合、オンラインではアイコンタクトや意思の疎通をすることが難しいため、一度会話がストップしてしまう場面を何度も経験した。オンライン上で1対1の会話することに対しては慣れてきたものの、複数人で議論をすることに慣れるまでにはもう少し時

間が必要であると感じた。

一方で、今後このような形で議論を行うことが当たり前になると思われる。すでに現在多くの企業で Web 会議が導入されている。そのため、就職活動においてこのような経験ができていたことはこの先必ず生かされると考えながら、今後の就職活動に臨みたいと考える。

オンラインキャリアガイダンス&就職説明会に参加した感想

修士 1 回生 川原 優紀(中山研究室)

本年度のキャリアガイダンスは、11月～12月の間、計22の企業、行政機関および地方公共団体に参加して頂き、オンラインミーティングを通して行われました。各分野で活躍されている市民工学科 OB・OG の方々から、今後の進路を考える上で貴重な情報を特別に提供していただきました。

私がキャリアガイダンスに参加して良かったと感じることは、市民工学科出身として活躍できる業界や仕事を網羅的に把握できたことです。実際に最前線で働いている OB・OG の方々の詳しい情報を通して、業種や企業によって異なる土木技術者の役割について理解が深まりました。加えて、OB・OG の方々自身の経験から就職活動に対するアドバイスも提供してくださり、現在の自分が何をすべきか、より明確になりました。今後は、キャリアガイダンスで得た情報も生かしつつ、自分のやりたことと適性をさらに分析し、就職活動の軸や企業を選定していこうと考えています。

今回のキャリアガイダンスは、就職活動の下地を整える上で、大変有意義なものでした。お忙しい中参加して頂いた市民工学科 OB・OG の皆様に、厚く御礼申し上げます。

卒業生へのメッセージ

神戸大学工学部創立 100 周年記念モニュメントについて

齋藤雅彦

測量とは、地表上の位置や高さ、あるいはそれらの変化を測り、形状や面積を正しく把握するとともに、これらを図示する技術であり、測量学および測量学実習は、過去から現在に至るまで、土木工学・建設学・市民工学を学ぶ学生にとって不可欠な科目と位置付けられてきました。一方、測量学実習に使用される測量機器は、その時代とともに着実に進歩を遂げ、1980年代まで使用されていた代表的な測角器械のひとつであるパーニア読みのトランシットは、1990年代には電子式セオドライト、2000年代以降は光波測距儀を備えたトータルステーションへと変貌していきます。このように、実習に使用されてきた測量機器は、「学んだ時代を映す鏡」としての側面もあるため、工学部土木工学科・建設学科・市民工学科では、1960年代から現在に至るまで、それぞれの時代に活躍した測量機器を大切に保存しています。これらを代表して、100周年モニュメントとして保存されることになりました測機舎（現株式会社ソキア・トプコン）の「ホーコートランシット」は、1959年に発売されたもので、おもに1960年代に使用されていたものと思われます。



全長	225mm	口径	直径	119mm
像	正	物鏡	顕微鏡目測	6'
倍率	24x	目鏡	直径	8.4mm
物鏡有効径	35mm	主気泡管(傾角)	顕微鏡目測	1'
分解能	3.5"	副気泡管	主気泡管(傾角)	40/2mm
視界	1'5"	副気泡管	副気泡管	90/2mm
最短視準距離	1.8m	重量	本体	格納箱
スタチア	100	量	5.9kg	4.8kg
			4.8kg	4.6kg

ホーコートランシット（測機舎；1959年）

各支部の取組み

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。暁木会支部のページ (<http://www.gyoubokukai.jp/shibu/shibu.html>) もご参照ください。

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定
東京	700	森田 篤 ^㉔	石井 卓司 ^㉔ （株）鴻池組 TEL 03-5201-7642 E-mail : ishii_tj@konoike.co.jp	6月
東海	63	山縣正明 ^㉔	竹本 正和 03（東邦ガス（株）TEL 052-872-9240） E-mail : m_take@tohogas.co.jp	10月
岡山	46	西本 靖 ^㉔	熊城 秀輔 03 （岡山県備中県民局 TEL 0865-69-1636） E-mail : shiyuusuke_kumashiro@pref.okayama.lg.jp	9月
広島	77	小田秀樹 ^㉔	木村 裕行 08（復建調査設計（株）TEL 050-9002-1742） E-mail : h-kimura@fukken.co.jp	7月

暁木一水会令和2年度活動報告&令和3年度活動予定

【令和2年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	内容、講師	摘要
153	R2.5.13	【講演会】 兵庫県、神戸市、大阪府の主要施策	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い中止
154	R2.8.26	【講演会】 一般の講師	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い中止
155	R2.11.4	【見学会】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い中止
156	R3.2.3	【講演会】 母校の先生	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い中止

【令和3年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	内 容	講 師
157	R3.5.12	【講演会】 兵庫県、神戸市、大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府の職員
158	R3.8.4	【講演会】	一般の講師
159	R3.11.10	【見学会】	
160	R4.2.2	【講演会】	母校の先生

場 所 楠公会館（湊川神社内）住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005
 会 費 4千円
 連絡先 代表世話人 井澤 元博^㉔
 暁木一水会連絡調整役 久保 真成^㉔（神戸市役所） TEL：090-3940-0076

暁木会令和2年度総会のご案内

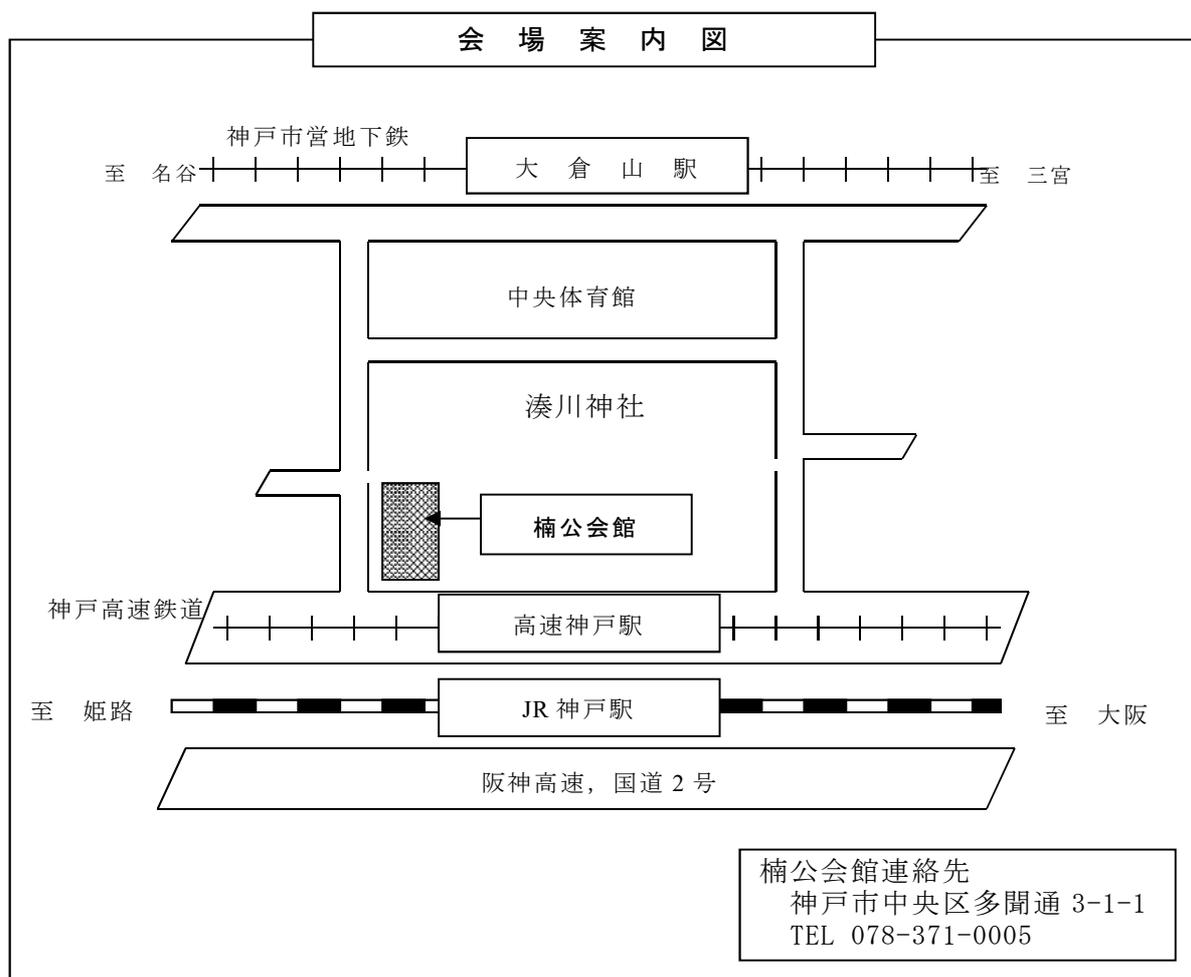
令和2年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。(詳細は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、役員会、幹事会の後、決定いたします。)

■日時 令和3年3月25日(木) 午後6時～午後7時20分

■場所 湊川神社 楠公会館
(最寄駅は、JR神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅)

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。なお、会費(5,000円)は当日徴収いたします。
(懇親会 午後7時30分～午後8時40分)

■連絡先 暁木会 常任幹事 竹本 修[㊤]
TEL : 090-4766-3299
Email : info@gyoubokukai.jp
Web : http://www.gyoubokukai.jp



暁木会年会費納入のお願い

暁木会は、母校の発展、学術研鑽並びに同窓生相互の親睦のための活動を進めています。会員の皆様からいただく会費を収入源として運営しています。令和3年1月19日時点で約1,240名の会員各位にご理解とご協力をいただき、会員名簿や暁木会ニュースの発行、総会等の行事、市民工学教室への援助などの事業を実施しています。

特に、今年度は、「新型コロナウイルス感染症に負けない大学への支援」を行っていることもあり、新規加入会員が多く、1月19日段階で81名になっています。しかしながら、まだまだ新規加入会員数は十分ではない状況です。

つきましては、大変恐縮ではございますが、会費納入の手続きが未了の会員各位には、会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

なお、暁木会ではホームページ (<http://www.gyoubokukai.jp>) において、卒業生の様々な情報、各支部の活動情報等を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

年会費額、支払い方法等は以下のとおりです。

1. 年会費額 ￥3,000円

※年会費納入の登録をいただいた会員には、暁木会会員名簿（2年ごとに発行）を送付させていただきます。

2. 年会費の支払い・登録方法

ご指定の金融機関から、年1回「自動引落とし」させていただきます。

「預金口座振替登録書（集金代行）」に必要事項をご記入いただき、返信用封筒にてご返送ください。集金代行機関として三菱UFJニコス株式会社に、金融機関からの集金を委託しております。

会費納入の手続きが未了の会員各位には、info@gyoubokukai.jp 宛に氏名、連絡先を記載の上メールしていただきますようよろしくお願いいたします。「預金口座振替登録書（集金代行）」と「返信用封筒」を郵送させていただきます。

なお、登録解除・登録金融機関等の変更などについては、暁木会事務局 info@gyoubokukai.jp 宛に、変更する項目の情報をご連絡ください。

3. 年会費集金の時期

毎年10月下旬頃の予定です。

令和2年度の名簿発行について

今年度は、2年に1回の名簿の改定版を発行する年となっており、会員の皆様には改定名簿とNo.43号の暁木会ニュースを令和2年12月にお届けしております。改定にあたり、誤記あるいは未更新等不十分な点多々あることかと思っておりますが、ご容赦をお願いするとともに改正等ございましたら、お手数ですがKTC事務局（TEL：078-871-6954、FAX：078-871-5722、E-mail:shindou@people.kobe-u.ac.jp）にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

主な登録内容：①勤務先名称 ②勤務先所属部署名 ③勤務先役職名 ④勤務先郵便番号
⑤勤務先住所 ⑥勤務先TEL ⑦勤務先FAX ⑧勤務先E-mail
⑨現住所郵便番号 ⑩現住所 ⑪現住所TEL ⑫現住所E-mail

なお、前項にも触れましたが名簿は会費会員にのみ送付しております。この機会に会費のお支払いを是非ご検討いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

おわりに

暁木会会長 伊藤裕文

新型コロナ禍、執筆を引き受けてくださった皆様、名簿改訂にあたりご協力いただきました学年幹事様および各企業の職場担当の皆様にお礼を申し上げます。

神戸大学では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、授業の開講もままならず授業のオンライン化など非常に厳しい状況が続きました。そういった中、暁木会会員の皆様から、「今母校を支援しないでいつするのか」と多くの力強い声をいただきました。結果、会費会員が初の1,200人を越え、早い段階から広範囲に大学支援を行うことができました。具体には、①マスク 500枚、消毒液 20ℓ、②遠隔授業対応としてノートPC 4台、Wi-Fiルーターレンタル、遠隔授業用スピーカーホン2台、③実情を踏まえた奨学金の検討などに及びます。皆様の力強いご支援に、心より感謝を申し上げます。引き続き、大学と連携を図り、学生目線で支援を継続していきます。

今後、デジタル化、集中型から分散へ、産業構造の変化、環境問題意識の高まりなど時代は急速に変化します。その変化の中でも、暁木会の結束を強め、ピンチをチャンスに変えていきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さい。オンライン同窓会でも結構です。その他、ご意見ご要望等ございましたら、下記連絡先までご連絡下さい。

発行者：暁木会

E-mail：info@gyoubokukai.jp

連絡先：常任幹事 広報G 能沢昌和 ㊸

株式会社 熊谷組

TEL：06-6225-2123 FAX：06-6225-2199

E-mail：mnozawa@ku.kumagaigumi.co.jp